週刊ウイングトラベル Wing Travel Weekly
No.2692 増刊号 2022.9.5
毎週月曜日発行：1部330円（消費税込）1年間13,200円（消費税込）●国土交通省交通運輸記者会加盟
発行所/航空新聞社 The WING Aviation Press ●〒107-0051 東京都港区元赤坂1-7-8 ヒルクレスト373 4階 ●TEL 03-3796-6646 FAX 03-3796-6645
www.jwing.net
mail@jwing.net

オーストラリア 教育旅行特集2022

オーストラリアで価値ある教育旅行の実現を

©Tourism Australia

ごあいさつ

オーストラリア政府観光局
日本局長
デレック・ベインズ

オーストラリアは2022年2月21日より、全世界から旅行者の受入れを再開しました。現在では、日本出国前のPCR検査、一部地域を除いてオーストラリア到着後のPCR検査または抗原検査や隔離も必要なく、コロナ前と同じように入国していただけます（2022年8月現在）。
日本との時差がほとんどなく、恵まれた気候のオーストラリアには、雄大な自然と開放的な雰囲気、フレンドリーな動物たちとの触れ合い、6万年以上の歴史を持つ先住民族の文化体験、SDGsプロダクトなどの学習要素がそろっています。2年以上に渡る制限のため、教育旅行を断念または延期せざるを得なかった学校様には、その再開の渡航先として、ぜひオーストラリアへお越しいただければ幸いです。

オーストラリアで価値ある教育旅行の実現を

グローバルな視野を養うには、海外での修学旅行や留学は最良の機会だろう。オーストラリアはその渡航先として絶大な人気を誇り、また確固たる強みをもつ。安全・安心な環境、利便性の高いアクセス、豊富な受け入れ体制、体験を通して学ぶ豊かな学習素材など、正確な情報を教育現場に伝え、学習効果の高い教育旅行を実現させたい。

安全と安心への信頼厚いオーストラリア

オーストラリア政府は、新型コロナウイルスに関するすべての入国制限を撤廃している。ワクチン接種証明書やDPDデジタル渡航者申告の手続きも不要となり、7月6日より就労を伴わない3ヵ月未満の滞在であれば電子入国ビザ（ETA）のみで入国が可能だ。つまり、コロナ前と同じ状況に戻り、ワクチン接種の有無を問わず入国が認められるようになっている。

こうした状況に伴い、空の便も順次運航を再開。日本の3都市からオーストラリアの主要6都市に直行便が運航されていた以前の状況に戻りつつあり、旅行はもちろん、前もって準備が必要なビジネスや教育旅行の計画も立てやすくなっている。

教育旅行においてもっとも重要な安全面も心配ない。手つかずの大自然と洗練された都市が同居する環境で、質の高い生活水準が保たれ、先進国のなかでも治安の良さは折り紙つき。医療体制も整っており、主要都市に日本語が通じる病院があるほか、コロナに係るPCR検査や陰性証明書の発行が可能な民間医療機関も多数そろっている。6月28日時点の情報は下記を参照。
https://www.au.emb-japan.go.jp/files/100134350.pdf

大使館・領事館リスト

- 在オーストラリア日本国大使館
- 在シドニー総領事館
- 在パース総領事館
- 在メルボルン総領事館
- 在ブリスベン総領事館
- 在ケアンズ領事事務所

01 安心・安全
治安・衛生・医療に安心感

政治体制が安定しているオーストラリアは、先進国でもトップクラスの治安の良さを誇る。水道水を飲めるのはもちろん、食事や宿泊施設などの衛生管理も整っており、主要都市では日本語が通じる病院もあるなど、医療水準も高い。

02 アクセス
日本から主要都市へ直行便

日本とオーストラリア間は、主要都市間のフライトが充実しており、アクセスが容易。最も近いケアンズは約7時間半、シドニーでも約9時間のフライトで、夜便を利用すれば、翌日の午前中からすぐに活動することができる。

03 時差
時差ボケなしで無駄なく行動

日本のほぼまっすぐ南に位置するオーストラリアは、ほとんど時差がない。東部が＋1時間、西部が－1時間で、夏時間でも最大時差は2時間。そのため体調に無理のないスケジュールを組むことができ、有意義に行動できる。

04 気候
広大な国にさまざまな気候帯

南半球に位置するオーストラリアは、日本と季節が反対で、地域によって気候帯が異なる。北部は1～3月に雨季となるが、熱帯雨林の景観が鮮やか。南部の主要都市は温暖で、1年を通じて湿度も低く快適に過ごすことができる。

@Australian International Student Tours

体験と交流のプログラムが充実

教育環境が整い、教育レベルや就学率が高いオーストラリアは、教育大国としても知られている。海外からの学生の受け入れにも積極的で、2019年は約76万人もの学生がオーストラリアに留学していた。

日本からの教育旅行もリピート率が高く、オーストラリアでの実績を積み上げている学校が多い。安全や安心、気候、多民族国家などの条件に加え、多くの学校がオーストラリアを選ぶのは、体験を通して学ぶプログラムが充実しているからだ。

例えば修学旅行なら、班別行動や学校訪問のセッティングが好まれている。大型グループであってもフットワークが軽い班別行動は、自由散策やショッピングタイム、ランチタイムなどを組み込むことで自主性やチーム力を育み、現地の人々と接することで英会話実践の機会としても貴重な体験となる。

リクエストが多い現地校訪問も、同じ年ごろの現地学生と交流するまたとない機会。多くは半日のスケジュールでスポーツや双方の国の文化を紹介し合うなどの内容で行われ、学生にとって大きな刺激となっている。

そのほか、自然保護や多民族国家、SDGsやSTEMなど、多彩なテーマで行うフィールドワークもおすすめ。合宿や交流試合など、スポーツ交流でオーストラリアを訪れるケースも多い。

オーストラリアらしい要素で＋αも

教育旅行にオーストラリアらしさを求めるなら、なんといってもおすすめはファームステイだろう。現地の人々の普通の生活を通し、英語でコミュニケーションを取りながら異文化を学ぶことができる。加えて、農作業の手伝いや動物たちとの触れ合いにより、短時間でホストファミリーと打ち解けられるのも特徴だ。

ファームステイは一度に数百人単位の学生を受け入れることも可能。厳選した家庭に数名ずつ滞在するスタイルが一般的で、2泊、3泊と取り入れる学校も多く見受けられる。

また、オーストラリアの先住民族アボリジナルピープルの文化を学ぶプログラムもオーストラリアならではだ。州によっては彼らの居住区で独自の歴史や伝統について話を聞くことができる。アボリジナルピープルの文化施設で彼らの歌や踊りを見学したり、ブーメランの飛ばし方や槍投げを体験したりするアクティビティも人気だ。

オーストラリアへの教育旅行は、異文化や語学だけでなく、コミュニケーション能力の向上やグローバルな感覚を養う絶好の機会。必ずやグループの規模や特性、目的に見合うスケジュールを組むことができるだろう。

オーストラリアが教育旅行先に選ばれる10の理由

05 多民族
多民族・異文化を肌で実感

さまざまな民族が当たり前に共存しているオーストラリア。人種の異なる人々が互いの文化を理解・尊重している国は、学生にとって大いに刺激的だ。今後の国際社会を担う学生にとって、グローバルな視野を啓発できる。

06 英語圏
交流を通じ学習意欲を刺激

異民族同士による会話が多いことから、英語が分かりやすく、非英語圏の人たちに対する態度も寛容的。学校訪問やファームステイなどの交流を通して生きた英語を実践できるため、学習意欲の向上も期待できる。

07 学習素材
独自の素材を多彩にアレンジ

独自の進化を遂げたオーストラリアでは、他の国では見られない大自然や固有の動植物と触れ合える。先住民族アボリジナルピープルの歴史や文化も興味深い素材。学校の特色に合わせ、福祉の現状や企業訪問等をアレンジすることもできる。

08 世界遺産
ユニークな世界遺産で体験学習を

オーストラリアは、複合遺産を含む自然遺産の数が世界最多の国。世界最大級の一枚岩や広大な珊瑚礁、熱帯雨林、奇岩群などいずれもユニークで神秘的だ。アクティビティも充実しており、体験学習の場としても価値が高い。

09 ハード
受け入れ施設に豊富な選択肢

教育旅行先として人気の都市がいくつもあり、どの都市も宿泊施設が充実。エコノミーからラグジュアリーまで、予算やグループの規模に応じて選べる。ファームステイや研修センターなども人気で、日本人の受け入れにも慣れている。

10 ホスピタリティー
本物の交流を体験

オーストラリアとは国家間の関係が良好で、オーストラリア人には親日家も多い。日本人や日本語に対する関心も高く、交流も深めやすい。オージーのホスピタリティーは、学校訪問やファームステイなどを通して実感できる。

Ohkagakuen University

桜花学園大学

愛知県豊明市に位置する4年制の桜花学園大学。20年の歴史をもつ保育学部に国際教養こども学科を新設し、11カ月におよぶオーストラリア留学を必修としている。コロナ禍で中断していた留学を今年の春から再開し、現在82名の学生がブリスベンとゴールドコースト、メルボルンに滞在中だ。新学科の立ち上げから関わり、これまで数多くの留学をサポートしてきた加藤あや美准教授に話を聞いた。

オーストラリア留学11カ月、保育を英語で学ぶ

専門学校に通い、資格を取得する留学を必修に

安全で多様性を重んじる保育を実践するオーストラリアへ

桜花学園大学は2018年、保育学科を擁する保育学部に国際教養こども学科を新設した。トヨタ自動車をはじめとする製造業が盛んな愛知県は外国籍の子供たちが多く、保育の現場でもこうした状況に適応できる人材を育成するのが目的だ。

同科の特色は、保育、留学、資格の3つをキーワードに、それぞれのカリキュラムを4年間で修得し、専門性を身につけること。1年次に2週間のニュージーランド研修、3年次に11カ月のオーストラリア留学を必修とすることで、コミュニケーション能力や問題解決能力を養い、広い視野で行動できる力を育成するのが狙いだ。最終的に日本の保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、そしてオーストラリアの幼児教育と保育におけるアシスタント資格であるサティフィケイトIIIを取得することができる。

同校ではこれまでも海外研修や留学を実施してきたが、必修留学をカリキュラムに組み込んだのは初めてで、これは全国の保育系学部学科でも初の試み。留学は2年生が終わる2月に始まり、3年生の1月に帰国するスケジュールで、「保育を英語で学ぶ」ことを明確な目的としている。

留学先をオーストラリアにしたのは、何よりもまず「安全かつ安心して学生を滞在させることができる国であること」と加藤先生。時差も少ないため、トラブルなどが起こっても現地と日本でリアルタイムに対応できるのも魅力だという。加えて、オーストラリアは日本と異なり多様性を重んじる保育を実践していることも理由の1つ。全員で同じ活動に取り組む日本の保育と違い、オーストラリアは1人1人が別行動。そのため、保育者は「教える」のではなく「見守る」保育が必要とされている。

コロナ禍の留学、手探りで再開

国際教養こども学科は2018年に新設したため、2018年、2019年は1年生がそれぞれニュージーランドへ短期研修を実施した。オーストラリア留学が初めて行われたのは、2018年に入学した学生が間もなく3年生になる2020年の2月。しかし、3月に日本で大型客船からコロナ感染者が出たことが大きく報道され、東京のロックダウンも噂されて深刻さを増したため、大学では苦渋の決断で同年4月1日に全員を帰国させたという。

それからの2年間は留学再開の目処が立たず、ついに2018年に入学した学生は2カ月弱の留学で卒業していった。今年になってもコロナ禍は続いているが、2月以降に現3年生と4年生の同時留学に踏み切ったという。「入国規制の緩和や国内線乗り継ぎの再開などを確認しながら2月まで待ち、ようやく再開することができた」と加藤先生。現在、3年生43名と4年生39名がブリスベン、ゴールドコースト、メルボルンに滞在している。

待ち望んだ留学で大きく成長

留学のスケジュールは、最初に約3カ月の語学研修を行い、その後の7カ月は専門学校で保育士資格取得コースの講義と実習を行う。例えば、4つのキャンパスをもつ専門学校Imagine Education Australiaは、一般英語コースと保育コースを含む多くの専門コースを提供しており、保育園も併設していて条件がそろっている。

具体的に、現3年生のスケジュールを見てみよう。4年生が2月に出発している関係で、3年生は2年次の3月に日本を出発。最初の15週間はImagineの一般英語コースで研修し、現在は同校の保育コースで実習プログラムを受けている。専門の18科目を学び、現地の保育所で120時間以上の実習を重ねるという内容だ。もちろん、休日や休暇にはオーストラリアの大自然や固有の動物、先住民族のアボリジナル文化に触れるといった異文化を体験・吸収する時間も確保されている。

滞在先は、語学研修の中盤まではコンドミニアムで、保育実習中はホームステイとシェアハウスの選択肢を設けた。本来は語学研修中にホームステイを予定していたが、これもコロナ禍の影響で調整せざるを得なかったという。

学生たちはこの2年間、留学の再開を待ち望んでおり、現在オーストラリアに居ることの喜びを実感しているという。一方で、コロナ禍により語学学校に多国籍な学生が少ないといった想定外の事態も起こっている。インターナショナルな環境に身を置きたいと思っていた学生ほど、周りが日本人だらけと落胆しているというが、「何でもすぐに相談してきた学生が、自主的、主体的に行動できるように変わってきた」と加藤先生。理想通りにいかないことが起きても、その中で最善策を考えられるようになっており、どの学生も強くなっているとその成長ぶりに安堵している。

留学先で受ける刺激や戸惑いも糧に

留学中の学生たちの声を紹介しよう。3年生のOさんは、オーストラリアで生活するようになってから「英語で英語を学ぶことが刺激的で楽しい」とコメント。英語をもっと学びたい、もっと話せるようになりたいと意欲が湧いているという。

同じく3年生のTさんは初期にホームシックを感じたというが、「学校内に友人もでき、できるだけ日本人学生以外と話すように心がけている」と話す。2人に共通しているのは、留学生以外の多国籍な人々ともっと関わりを持ちたいという点だ。今後のホームステイや学校生活以外の時間の過ごし方次第で、新しい人々との関わりを広げていくこともできるだろう。

保育実習に関して4年生のKさんは「日本の保育と異なり、日々新しい学びを得ている」とコメント。多文化理解に関する指導案を考えて実践したり、アボリジナル文化に関する制作活動をしたりと、充実した毎日を過ごしているという。

3年生のYさんは、「課題が多くて圧倒されているが、素直でかわいい子供たちと多文化共生の空間で過ごせることが貴重だと感じている」と話す。限られた時間の中で、やり残したことがないよう頑張りたいと前向きだ。

なお、現在留学中の4年生はスケジュールを短縮して9月末に帰国の予定。国際教養こども学科新設以来、オーストラリア留学の行程をすべて終了する初の学年となる予定だ。

スケジュール ｜ ゴールドコースト／ブリスベン

月日	行程
2022年 3月22日	中部国際空港→JL→羽田空港→JL
3月23日	→シドニー→QF→ブリスベン ※ブリスベン／ゴールドコースト泊
3月24日～4月29日	Imagine Education Australiaにて語学研修（土日は休み） ※38泊コンドミニアム滞在
4月30日～ 2023年 1月24日	Imagine Education Australiaにて語学研修と 保育実習プログラム（土日は休み） ※ホースステイやシェアハウスなど
1月25日	ブリスベン→QF→シドニー ※シドニー泊
1月26日	シドニー→JL→羽田空港→JL→中部国際空港

オージー・スペシャリスト・プログラム（ASP）

2021年9月にウェブサイトを刷新!さらに内容が充実

https://www.aussiespecialist.com/ja-jp

AUSTRALIA | AUSSIE SPECIALIST PROGRAM

教育旅行にも役立つプログラムをセルフ学習

「オージー・スペシャリスト・プログラム（ASP）」は、オーストラリア政府観光局が開発した業界向けのオンライン学習プログラム。コロナ禍が続く今、現地の情報をアップデートするのが難しいと感じる方におすすめだ。オーストラリアの基本情報を満遍なく学習できるのはもちろん、テーマごと、あるいは客層に合わせた学習モジュールが随時更新されている。セーブ機能があるため、自分のペースで進めることができるのも使い勝手がいい。

プログラムのもう1つの中核であるウェビナーは通算75回を超え、現地の生の情報を伝えている。万が一参加ができなかった場合も、見逃し配信で追いつくことも可能だ。

ウェブサイト刷新！最大の魅力とは

今回大きく加わった特典は、オージースペシャリストになると参加できる「ASPリワード・プログラム」。学習モジュールの受講やウェビナーへの参加でASPサイトにポイントが貯蓄されていく仕組みだ。溜まったポイントは、オーストラリア発のプロダクトとの交換や、個人旅行の際に使える割引特典「トラベルクラブ」の利用に使うことができる。

スペシャリスト限定のファムツアーやイベントも続々と計画中。今のうちにスペシャリスト認定にチャレンジし、最新の情報を取りに行こう！

オーストラリアの基本情報

国旗

●**面積**：日本の約20倍に当たる769万㎢。

●**人口**：日本の約5分の1に当たる約2,600万人。移民を多く受け入れてきた歴史があり、多民族・多文化国家となっている。

●**首都**：キャンベラ。シドニーとメルボルンの間に位置する首都特別地域。

●**公用語**：英語。イギリス移民によってつくられた国家なので、英語もイギリスの影響が強い。

●**時差**：東西に長いため3つの時間帯があり、東部は+1時間、中部は+30分、西部は−1時間。夏時間を採用している東部の州では、その期間は+2時間となる。

●**気候**：北部は熱帯気候、南部は温帯気候、中央部は乾燥帯気候に分けられる。

●**通貨**：オーストラリア・ドルとセントで、1ドル＝100セント。5種類の紙幣と6種類の硬貨が流通している。

●**電圧**：220〜240Vで、日本の100Vより高い。今のデジカメやパソコン、スマートフォンなどは240Vまで対応している。ただし、コンセントの形状はハの形または三又の形をしたO型プラグが多い。

●**政府**：国全体を統括する連邦政府のほかに、6つの州と1つの準州、首都特別地域それぞれに政府が存在する。外交や国防、貿易、移民、通貨などは連邦政府に権限があるが、教育や福祉などは各州や準州の各政府に権限がある。

●**入国**：パスポートのほかに、ビザ（査証）またはETA（電子入国許可）が必要。ETAとはElectronic Travel Authorityの略で、いわゆる電子ビザ。3カ月以内の観光や教育旅行なら観光ETAが便利でおすすめ。オーストラリアでの就労はできないが、1回の入国で最大3カ月まで滞在でき、発行から1年間は何度でも入国することができる。

国花
「ゴールデン・ワトル」

参考

オーストラリア政府観光局
https://www.australia.com/ja-jp

もっと知りたいオーストラリア
（在日オーストラリア大使館ウェブサイト内）
https://tell-me-about-australia.jp/

オーストラリアの学校教育システム

オーストラリアの学校教育システムは、初等教育、中等教育、高等教育に分かれる。初等教育には5、6歳時の準備学級が含まれており、その後、Year1〜6が日本の小学校に当たるプライマリースクールとなっている。

中等教育は前期と後期に分かれ、Year7〜10が日本の中学校に当たる前期中等教育、Year11、12が日本の高校に当たる後期中等教育だ。義務教育は前期中等教育までだが、後期中等教育まで修了する割合が高く、その後は高等教育である大学、専門学校、職業訓練校などへ進む。

オーストラリアでは、各州に教育担当の行政部が設置されているため、州によって学校教育システムが若干異なる。例えば、オーストラリアは4学期制が一般的だが、3学期制の州もある。

オーストラリア20の世界遺産

ウルル-カタ・ジュタ国立公園

New!

バジ・ビム文化的景観が20番目の世界遺産に！

2019年、ビクトリア州で2番目の世界文化遺産として登録。先住民グンディッジマラ族により6600年以上前に開発された約100㎢の水産養殖地。

グレート・バリア・リーフ

シドニー・オペラ・ハウス

ニンガルー・コースト

ナラコート／オーストラリアの哺乳類化石地域

ロイヤル・エキシビション・ビルとカールトン庭園

タスマニア原生地域

ニュー・サウス・ウェールズ州

New South Wales

日本からの教育旅行先として人気が高いニュー・サウス・ウェールズ州。安全性や豊かな自然、多国籍文化、教育水準の高さなど、教育旅行の条件が整っているためだ。また、オーストラリア最大の都市シドニーは、日本からの直行便が多いことも魅力の1つ。現在、日本航空、全日空、カンタス航空が羽田・シドニー間を定期運航している。ここでは、教育旅行におすすめの体験素材を厳選して紹介しよう。

©Destination NSW

教育旅行に適した体験素材4選

豊かな自然の中で動植物に触れ、シドニーのビーチでサーフィン文化を体験

SYDNEY

おすすめ素材 01 | タロンガ動物園

ガイドの案内で学ぶ固有の動物や保護活動

サーキュラー・キーからフェリーでもアクセスできる歴史ある動物園。シドニー湾に面した園内には、コアラやカンガルー、ワラビー、エミュー、ウォンバットなどオーストラリア固有の動物をはじめ、海洋生物や爬虫類なども展示されている。

教育旅行には、熟練ガイドが案内してくれるオーストラリアン・ウォークアバウト・ツアーがおすすめだ。動物と一緒に撮影したり、ケーブルカーに乗ったりとアクティブに過ごしながら、同園の取り組みについて学ぶことができる。所要時間は1〜1.5時間で、ツアー中は英語オンリーとなる。

https://taronga.org.au

おすすめ素材 02 | レッツ・ゴー・サーフィン

シドニーでサーフィンやビーチ文化を体験

シドニー近郊のボンダイ・ビーチを拠点とするサーフィン・スクール。教育旅行の受け入れにも積極的で、さまざまなプログラムを開発している。

サーフィン・レッスンはもちろん、ライフセービングの歴史や教育を学ぶなど、ビーチ文化が発達しているオーストラリアならではのプログラムもあって興味深い。スタッフはいずれも政府のスポーツ委員会やサーフィン・オーストラリアといった組織から認可を受けているので安心だ。プログラムは通年実施されており、グループの規模や予算などに応じた調整も可能。

https://letsgosurfing.com.au

PORT STEPHENS

おすすめ素材 03 | オークベール・ワイルドライフ・パーク

動物と間近に接し、保護や飼育について学ぶ

シドニーの北、車で約3時間のポート・スティーブンスに位置する野生動物公園。約10万㎡の敷地にオーストラリア固有の動物をはじめ、爬虫類や家畜など多様な動物を保護・飼育している。

教育旅行は子供から大学生まで幅広い学生に対応しており、いくつものプログラムを用意。かわいい動物に触れたり、爬虫類に餌をあげたりといった体験も可能だが、固有種の保護について、あるいは家畜のライフサイクルについて議論するプログラムもおすすめだ。牛肉の生産施設を見学することで、畜産の本質を学ぶこともできる。

https://oakvalewildlife.com.au

BYRON BAY

おすすめ素材 04 | トロピカル・フルーツ・ワールド

広大なフルーツエコファームで学ぶSDGs

州北部のバイロン・ベイから車で北に45分のフルーツ農園。広大な土地に、500種を超える世界各地のトロピカルフルーツを栽培している。

トラクターツアーや珍しいフルーツの試食ができるほか、SDGsの学習要素も豊富。例えば廃棄物をグッズのパッケージなどにリサイクルすることで持続可能な消費に取り組んでいる点は12番に相当。森林や土壌の維持・管理、生態系の保護といった取り組みについて知ることは15番をテーマにできる。ソーラーシステムの有効活用については、7番のエネルギーがテーマになるだろう。

https://www.tropicalfruitworld.com.au

注目! Study NSW | 本格的な留学や大学進学をサポート

ニュー・サウス・ウェールズ州では、国際教育戦略のもとで2014年に設立したStudy NSWが外国人学生の「学ぶ・暮らす・働く」をサポートしている。学びの場は多様で、QS 世界大学ランキング2023のトップ200にランクインしたシドニー工科大学、ウーロンゴン大学、ニューカッスル大学など6つの大学を含む州内11の大学をはじめ、州立の職業訓練専門学校TAFE、留学生のための語学学校などを選ぶことができる。Study NSWのウェブサイトにはさまざまな情報が掲載されており、事前の情報収集に便利。TRAVEL ADVICE欄のWelcome to NSWには動画もあり、各国の学生が空港の到着する様子や専門分野を学ぶ姿などを事前にチェックすることができる。

https://www.study.nsw.gov.au

西オーストラリア州
Western Australia

長年、「住みやすい都市ランキング」の上位にランクインしている街パースは、教育旅行を歓迎している。なかでもおすすめは、SDGsをテーマにしたアクティブラーニング。手つかずの自然が残るロットネスト島を巡り、再生可能エネルギーについて学ぶもので、教育関係者の高い関心を集めている。

島のシンボル、ワジュマップ灯台

ロットネスト島のSDGsプログラム
自家発電に取り組む自然保護の島でアクティブラーニング

独自の生態系を守る エコ・リゾートの島で教育旅行を

パースの沖合い約19kmに浮かぶロットネスト島は、独自の生態系を維持したA級自然保護指定の国立公園。島にはオットセイやアシカ、バンドウイルカなどの海洋生物をはじめ、さまざまな動植物が生息しており、“世界一幸せな動物”と称される有袋類クォッカの最大生息地でもある。世界各国から観光客が訪れるのは、このクォッカと一緒に写真を撮るのも目的の1つとなっている。

クォッカとのセルフィー（自撮り）が人気

島へはフェリーでアクセスでき、パース市内から約1時間半、フリーマントルからは約30分。島内は自動車の乗り入れが規制されているため、旅行者の足となるのはバスツアーか自転車だ。高級ホテルからドミトリーまで宿泊施設も充実しているので、1泊、2泊のスケジュールを組み込むのもいいだろう。

アクティブラーニングで SDGsを実感

教育旅行グループには、自然保護や環境対策、再生可能エネルギーについて学べるSDGsプログラムがおすすめだ。プログラムのメインは約2時間の島内一周バスツアー。ソーラーファームや風力発電を見学しながら、持続可能な島が目指す電力供給について詳しく知ることができるアクティブラーニングとなっている。

ドイツ製の風力タービンが電力を作り出す

ロットネスト島は早くから風力発電に取り組み、電力の約30％を供給。太陽光発電も加えれば、実に島の45％の自家発電を実現していて、これはSDGs7番のエネルギーについて大きな学びとなる。また、SDGs6番の安全な水に関しては、海水を淡水化することで飲み水以外のすべてをまかなっている点が注目される。

州政府は今後、予算を投じてインフラを強化し、島のエネルギー需要の75%を再生可能エネルギーで供給する計画を進めている。ツアーでは島の歴史や環境保護への取り組みについても案内されるので、エコ・リゾートの島が再生可能エネルギーに力を入れる理由を理解することができるだろう。

ソーラーパネルが並ぶ圧巻の風景

持続可能な観光の島 唯一無二の教育素材

島内一周バスツアーでは、ほかにも美しいインド洋が広がる最南端のパーカーポイントや国内で4番目の高さを誇るワジュマップ灯台、最西端のケープブラミンも訪れる。島の美しさを目に焼き付けながら、この島が地域で担う役割や持続的な観光地としての取り組みについて学ぶのは、学生にとって得難い体験となるだろう。

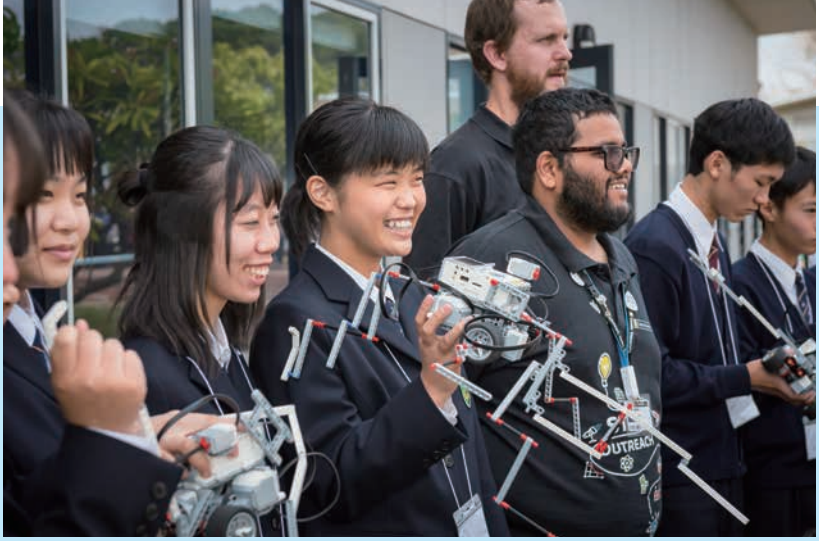
教育旅行の学習素材として、島全体で持続可能な機能を有するロットネスト島は実にユニーク。ツアーで訪れる場所は一例で、研修の目的や滞在時間などによってアレンジすることができる。グループの規模によっては自転車での島巡りもおすすめしたい。

パーカーポイントの美しい風景

西オーストラリア州政府観光局

西オーストラリア州での現地校訪問やホームステイは、留学エージェントやツアーオペレーターが斡旋している。各社とも効果的な交流プログラムを開発しており、公立校、私立校ともにニーズに合った学校を手配することが可能だ。

また、西オーストラリア州政府観光局では、州政府公認の留学エージェントGOLD Educational Tours（GET）と日本マーケット向けにSSH／SDGs／STEMプログラムを開発している。なかでも注目度が高いのは、GETとカーティン大学が連携したSTEMプログラムで、次ページに詳細を掲載した。なお、今後はSTEAMプログラムの開発も予定している。



西オーストラリア州では、最先端の大学と共同運営プログラムを開発している。なかでもカーティン大学とのSTEM（Science、Technology、Engineering、Mathematics）プログラムは秀逸。現地の大学生と一緒に体験するスタイルで、語学や科学など学びの要素を多分に含んでいる。

大学生と一緒にSTEMやフィールドワークを
最先端の大学で理系アクティブラーニング

現地大学生をグループリーダーに

本校をパースに置くカーティン大学は、分校も含めると4万人以上の生徒を有するマンモス校。理系分野に強いことで知られ、科学、技術、工学、数学の分野を取り入れたSTEMプログラムを開発している。

プログラムは現役大学生をリーダーに少人数グループで考察・議論するアクティブラーニングが主流。修学旅行のような大型グループでも5〜8名で活動するためリーダーの目が届きやすく、生徒も発言しやすくなると好評だ。英語“で”学びながら各自が能動的に参加することで、協調性や積極性も育むことができる。

また、大学生リーダーと構内を周りながら意見交換などをするキャンパスツアーや大学生の授業に参加することも可能だ。

大学のキャンパスで実験アクティビティ

STEMプログラムで行うアクティビティには、これからの若い世代が直面する世界のさまざまな課題を反映させている。例えば、身近な素材で作るウォーターロケットは、飛行距離を競うアクティビティ。実験を通して地球外への居住について考察することで、気候変動による具体的な対策について考えることができる。

浮き橋の耐久性を競う水上プラットフォームは、海面上昇により住む場所を失いつつある人々が直面する課題について思案するアクティビティ。持続可能な生活環境や気候変動に対応できる生活環境について問題解決を導くことができる。

いずれもシンプルなコンセプトで、楽しみながら世界のさまざまな課題を考察できるのが特徴だ。また、専門用語や理系科目の高い知識を必要としないため、理系・文系どちらの目線からも学べるアクティブラーニングとなっている。

大学の外へ飛び出し課外授業も

また、大学生をグループリーダーに少人数グループで活動するプログラムを大学の外で行うことも可能だ。例えば、港町フリーマントルでは、指示されたお題に取り組み、ゴールを目指すアメージングレースがユニーク。街ゆく人の助けを借りながら、英語を駆使して解決へと歩を進めるまさにアクティブな学びといえよう。

パース市内では、シンボルともいえる都市公園キングスパークで慰霊塔や開拓者の銅像などを巡りながら、国や州の歴史・文化について学ぶフィールドワークがおすすめ。先住民アボリジナルの歴史や文化について学ぶのも興味深い。

ほかにも、パースを舞台に「住みやすい街」に選ばれる理由や、自然と都市機能のバランスについて考えるプログラム、カバシャムワイルドライフパークでオーストラリアの固有動物について理解を深めるプログラムなども用意されている。

ゴールド エデュケーショナル ツアーズ

パースを拠点とする州政府の正規留学エージェントで、個人留学から大型グループまで年間2000名の受け入れ実績を誇る。創業以来、州政府教育省をはじめ、約70の現地学校や約3000軒のホストファミリーと密接な関係を築き、日本人学生に最適な英語“で”学ぶ海外体験プログラムを提供してきた。経験豊富な日本人スタッフも多数在籍しており、プログラムを100％自社で手配可能だ。

ロットネスト島でのSDGsプログラムやカーティン大学のSTEMプログラム、現地校での通常授業体験、ホームステイなど、具体的な問合せは下記まで。

なお、2022年8月に実施した下館第一高等学校・附属中学校の学生65名のパース研修10日間の様子を下記の動画で視聴できる。
https://www.youtube.com/watch?v=F3OVYus3Q1Y

GOLD Educational Tours
TEL●61-8-6155-2625 または 61-482-076-423
URL●http://www.goldil.com.au/jp/　Email●ryugaku@goldil.com.au

オーストラリアの学習素材

SDGsな体験で学ぶ オーストラリアの 自然、環境、動物、歴史、宇宙

教育旅行の受け入れに熱心なオーストラリアは、学習素材の宝庫。大都市から容易にアクセスできる場所で、自然や動植物、歴史、農業、宇宙など豊富なテーマを学ぶことができる。多彩な教育旅行プログラムは、グループの規模や予算、時期などに合わせて柔軟に対応できるのもオーストラリアの強みだ。

ノーザンテリトリー

ウルル（エアーズロック）

現地ガイドと巡るカルチャーツアー

教育旅行でウルルを訪れるなら、ウルル・アボリジニアート＆カルチュアル・エキスペリエンスツアーがおすすめ。アナング族のガイドと一緒にウルルのふもと歩きながら、壁画や神話などの文化に触れ、現代アートのドットペインティングに挑戦することもできる。

AAT Kings
https://www.aatkings.com

約半日のツアーは16名限定で催行

アリススプリングス・デザートパーク

固有の動物や野鳥との触れ合いを

市内から車でわずか10分の距離に位置するアリススプリングス・デザートパークは、120種類以上の動物や野鳥などを放し飼いに近い状態で飼育する野生動物公園。園内ではガイドツアーやトークショー、野鳥への餌付けなどさまざまなプログラムを提供している。

Alice Spring Desert Park
https://alicespringsdesertpark.com.au

放し飼いの野鳥がすぐそばに

西オーストラリア州

ロットネスト島

自らエネルギーを創出する島に学ぶ

パース沖合のロットネスト島は、自然保護や環境対策、再生可能エネルギーで知られるエコの島。教育旅行グループには、ソーラーファームや風力発電などを見学しながらバスツアーで島を巡るフィールドワークがおすすめだ。島の持続可能な取り組みを学ぶことができる。P8に詳細を掲載している。

Gold Educational Tours　https://www.goldil.jp

1979年から風力発電を導入

グラビティ・ディスカバリー・センター

45mの斜塔でガリレオの重力実験を

パースの北約80㎞のジンジンには、重力波を専門とする観測所と天文台があり、学生の研修を受け入れている。高さ45mの斜塔では、物体の落下速度（万有引力）実験でガリレオの説を自ら証明することができる。天文台では、大きな望遠鏡で南十字星などの南半球の天体観測が可能だ。

Gravity Discovery Centre
https://gravitycentre.com.au

力学や天文学が学べる教育素材だ

南オーストラリア州

アデレード大学 南オーストラリア大学

2つの大学に宇宙分野学ぶコース開講

2018年、オーストラリアは宇宙庁を創立し、2020年2月にはアデレードにオーストラリア宇宙局（ASA）を開所した。アデレード大学には宇宙科学と天体物理学、南オーストラリア大学には宇宙工学を開講しており、日本からの留学生を歓迎している。

https://www.adelaide.edu.au
https://www.unisa.edu.au

州を挙げて宇宙熱が高まっている

カンガルー島

山火事からの復活を学習プログラムに

2020年1月、野生動物の宝庫カンガルー島は大規模な山火事に見舞われた。現在、島は驚くべき力で再生しており、アデレードを本拠とするバニックトラベルでは、通常のフィールドワークに加え、島の復興を目の当たりにできるプログラムを用意している。

Bunnik Travel　https://bunniktravel.net

木の上には野生のコアラの姿も

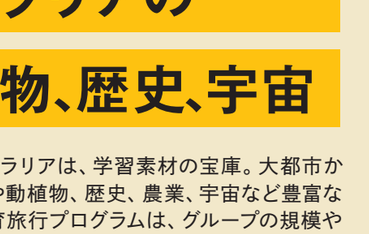
タスマニア州

カリンガファーム

広大なシープファームで自然探索

ホバートの北、車で約1時間の牧場。300haの広大な敷地に約3000頭の羊を飼育するシープファームで、数々の受賞歴もある。教育旅行グループには、羊の毛刈りやティータイム、あるいはランチタイムを含むファームツアーやコテージでのファームステイがおすすめだ。

Curringa Farm　https://curringafarm.com.au


目の前で見学できる羊の毛刈り

ポート・アーサー・ヒストリック・サイト

流刑地の歴史を刻む世界遺産を探訪

ホバートの南東約60km、タスマン半島にあるポート・アーサーは、多くの犯罪者が送られた流刑地があった場所。「脱出不可能な監獄」といわれた史跡内には刑務所跡や独房、教会、病院などの建物があり、ガイド付きウォーキングツアーで巡ることができる。

Port Arthur Historic Site　https://portarthur.org.au

2010年、囚人遺跡群として世界遺産に

クイーンズランド州

スプリンブルック国立公園

世界遺産の森でサステナブルツアー

ゴールドコーストから約1時間西へ入った世界遺産ゴンドワナ多雨林内に位置する国立公園。IMPツアーズでは森を知り尽くしたエコガイドによる日本人ガイドツアーを実施しており、熱帯雨林を散策しながら大自然の魅力や環境保護などについて学ぶことができる。

IMP Tours
https://imptours.com.au

大迫力の滝や展望台などを巡る

アサートン高原

ファームステイと農業体験を同時に

ケアンズの南西約90㎞のアサートン高原は農業が盛ん。この地で教育旅行グループにさまざまなアクティビティを提供しているクレーンダンスオーストラリアでは、ファームステイをすすめている。農産物の流通や活用について学んだり、多様な農場を身近に体験することができる。

Crane Dance Australia
http://www.cranedance.com.au

豊かな農作物の収穫をお手伝い

ニュー・サウス・ウェールズ州

シドニー・オペラハウス

世界遺産の内部を巡るガイドツアー

ヨットの帆を思わせる外観で知られるシドニー・オペラハウスは、内部を見学するツアーが催行されている。完成までに14年を要した歴史や美しい建物の構造など知ることができて興味深い。日本語ガイドによるツアーは約30分で、教育旅行グループにも対応可能だ。

Sydney Opera House
https://www.sydneyoperahouse.com

2007年に世界文化遺産に

キャプテン・クック・クルーズ

サンセットクルーズでディナー体験を

世界三大美港のひとつ、シドニーハーバーを豪華な船で巡るクルーズツアー。教育旅行グループには、美しい入江を観光しながら食事もできるアーリーディナークルーズがおすすめだ。約2時間で3コースのディナーをリーズナブルに楽しむことができる。

Captain Cook Cruise　https://www.captaincook.com.au

乗船時間約10分のショートコースも

ビクトリア州

フィリップアイランド ネイチャーパーク

野生動物の生態を間近に観察

野生動物や環境保護に関する教育アクティビティが豊富なフィリップ島。なかでも3万羽以上も生息するリトルペンギンによるペンギンパレードが人気で、2019年には新たなビジターセンターも建設された。レンジャーの手伝いをするボランティアプログラムも充実。

Phillip Island Nature Parks　https://www.penguins.org.au

目の前を歩く野生のリトルペンギン

パッフィンビリー鉄道

自然や歴史感じるレトロな列車に乗って

メルボルン東部のダンデノン丘陵を走る国内最古の蒸気機関車。2021年、レイクサイド駅に新たなビジターセンターがオープンし、鉄道の歴史を学べるディスプレイやレストラン、会議室などが整備された。大型グループには車両や列車全体の貸し切りも可能。

Puffing Billy Railway.
https://puffingbilly.com.au

地元のボランティアが運営を担う

日本路線で運航中のボーイング787-8型機

成田、関西から
ケアンズ、ゴールドコーストへ

Jetstar

ジェットスター航空は、2022年7月より日本からオーストラリアへのフライトを再開、現在は成田－ケアンズ線、成田ーゴールドコースト線、関西－ケアンズ線を運航する。関西からは唯一のオーストラリア直行便だ。

ケアンズとゴールドコーストのあるクイーンズランド州は、オーストラリアのビーチリゾートとして日本人にも人気が高い。一方で修学旅行や語学研修、また留学先としても高い需要を誇る。ジェットスター航空では、教育旅行需要に合わせた各種アレンジにも対応している。

需要動向に合わせ、順次増便
全便ボーイング787型機を投入

ジェットスター航空が運航する日本－オーストラリア線は、今後の需要動向に合わせ、順次増便する予定。また全便に最新機材のボーイング787-8型機を投入。ビジネスクラス21席、エコノミークラス314席の計335席で、大型の教育旅行でも対応可能だ。

2022年8月時点の2022年10月30日～2023年3月25日の運航予定スケジュールに基づく。予告なく変更になる場合があります。

314席あるエコノミークラスは大型の教育旅行にも対応

ジェットスター航空で行く教育旅行

ここがポイント

① 豊富な教育旅行の実績

©Tourism and Events Queensland

ジェットスター航空は、LCCのイメージが強いが、教育旅行の実績は豊富。以前は、年間平均460団体、生徒数で約1万7700名を送客。オーストラリア教育旅行全体で約３割のマーケットシェアを占め、全体で63％を占めるクイーンズランド州に限ると50％を超え、圧倒的なシェアを誇る。

② 大型団体にも対応可能、乗り継ぎ、チャーター便運航も

©Tourism and Events Queensland

７－８月は語学研修中心、10－12月は修学旅行など大型団体を送客。１団体最大人数680名、１フライト最大人数312名を送客した実績もある。

また、教育旅行は関東、関西の学校が中心だが、オーストラリア路線は夜便のため、ジェットスター・ジャパンの他就航都市からも、成田／関西を経由して同日中にオーストラリアに向けて出発が可能。なお、過去には福岡－ケアンズ間での修学旅行チャーター便を運航した実績もある。

③ クイーンズランド州への直行便、予約、料金面で早期対応

ジェットスター航空の強みは、教育旅行でも人気の高いクイーンズランド州へ直接アクセスできる点。また機材においても大型団体に対応。予約面でも早期の手配ができるほか、料金でも先の日の料金提示が可能だ。

④ セミナーやFAMを今後実施

現在、学校団体からの今後の教育旅行に関する問い合わせが増えており、ジェットスター航空では、予約や料金面でのアレンジ、また安全・安心なフライトの提供に努めていく方針。今後は、クイーンズランド州政府観光局との共催による営業・販促活動に力を入れる。

具体的には、旅行会社対象の教育旅行セミナー、ジェットスター・ジャパン運航都道府県でのセミナーの開催、また旅行会社や教育関係者を対象とした教育旅行FAMも実施していく予定だ。

世界の空も、かしこく、ちゃっかり♪

★東京(成田)✈ケアンズ 片道 ¥38,000~

★東京(成田)✈ゴールドコースト 片道 ¥42,000~

★大阪(関西)✈ケアンズ 片道 ¥37,000~

燃油サーチャージ不要

jetstar.com公式

フォローしてね @jetstar_japan

表示運賃はエコノミークラス「Starter」片道運賃。機内持込手荷物は合計7kgまでとなります。支払手数料、空港使用料、諸税が別途必要です。諸条件が適用されます。燃油サーチャージ(燃油特別付加運賃)は不要です。エコノミークラスには受託手荷物の料金は含まれません。ビジネスクラスは30kgまでの受託手荷物料金が含まれます。掲載情報は2022年8月31日現在のものです。

感染対策や出入国に関する情報は特設ページをご確認ください

Jetstar

日本の空も、世界の空も、かしこく、ちゃっかり。

クイーンズランド州
Queensland

日本からクイーンズランド州への教育旅行を再開する動きが本格化してきた。直行便を運航する航空会社の中には7月・8月だけで学校主催の教育旅行や自治体の派遣事業に関連して50校を運ぶケースもあるほどだ。十数人の語学研修から200人超の修学旅行まで、さまざまな規模や目的の教育旅行の再開を受けて、クイーンズランド州側の新たな学習プログラム作りも活発化し、受け入れ体制は日々進化している。7月からはオーストラリアへの渡航条件だった新型コロナワクチンの接種要件も廃止され、クイーンズランド州を訪れるハードルが下がり、教育旅行がますます活発化する期待が高まっている。

教育旅行の再開で目立つ中・高校の語学研修
現地側の新・学習プログラム開発や支援体制強化も進行

注目の教育旅行デスティネーション 01

ケアンズ Cairns

学校支援プロジェクト適用第1号として 大阪府立藤井寺高等高校が7月に語学研修旅行を実施

21名が参加し9日間の日程で実施

大阪府立藤井寺高等高校は7月26日出発／8月3日帰国の9日間（現地7泊）の日程でケアンズへ研修旅行を実施した。参加した生徒は19名。2名の先生が同行し、計21名での研修となった。

同校では異文化体験と語学学習を目的に1年生から3年生の希望者を対象に「海外ホームステイ研修」を実施してきたが、今回はコロナ禍により中断していた研修を3年ぶりに再開。再開後初めての目的地としてケアンズを選んだ。

旅行会社が提案した候補目的地の一つだったケアンズを選んだ理由について、今回の研修旅行に同行した英語科教諭で海外交流委員長でもある村川徹弥先生は「ケアンズは渡航時期の気候が日本とあまり変わりがなく自然も豊か。良い環境で研修を実施できると判断した」と説明する。

生徒の成長ぶりに驚きも

現地では日本人が校長を務めるサンパシフィック・カレッジが受け入れ先となり、日本語禁止のルールのもとで5日間みっちり語学研修。滞在先はホームステイで、週末の2日間はホストファミリーと共に、それぞれがクイーンズランド流の生活を体験した。また研修6日目、最後の授業の後に卒業証明書を手渡すセレモニーがあり、午後はキュランダ観光やレインフォレストステーションで動物たちとの触れ合いも楽しんだ。

ケアンズでの研修効果は目覚ましいものがあったようで、村川先生は「生徒たちの変化に驚きました。おとなしい生徒が多かったのですが、積極的に学ぶ姿勢を身に付け、間違ってもいいから自分から英語を話そうという意識も学んだようです」と話す。今後は事後研修を通じて学習効果を測定するほか、文化祭では研修で学んだ事柄やオーストラリアの思い出を発表する予定だ。

学校支援プロジェクトを利用

文化祭での発表の際にも大いに役立つのが現地での研修の様子をプロが撮影した映像だ。というのも今回の藤井寺高校の「海外ホームステイ研修」は、クイーンズランド州政府観光局とケアンズ観光局が用意した「ケアンズ＆グレートバリアリーフ学校支援プロジェクト」の適用第1号の教育旅行であり、動画撮影などの特典が提供されたからだ。

学校支援プロジェクトは、クイーンズランド州のケアンズやグレートバリアリーフ地域を目的地とする教育旅行を、初めて実施する学校を対象としたもの。旅行会社経由での申し込みと、2023年12月30日までの渡航が条件となっている。これらの条件を満たした学校を14校、先着順で選び支援プログタムを提供する。

支援プログラムの内容は、滞在中の活動の様子を現地で活躍するプロカメラマンが動画撮影し、後日記念品として提供するほか、実施校へのケアンズ訪問証明書の贈呈や渡航前の観光局によるオリエンテーションの実施、ケアンズ在住留学生による現地でのグループ・オリエンテーリングの実施、留学生向けに設置されているケアンズ市内の「Student Hub」の利用も特典として提供される。

注目の教育旅行デスティネーション 02

ブリスベン＆ゴールドコースト Brisbane&Gold Coast

探求学習に最適なSDGs教育プログラム「AJWCEF野生動物保護講座」

AJWCEFとは

学習指導要領で重視されている探求学習は、自分で問いを立てて情報を集め、考えて行動する力を身につけるためのものだ。そんな探求学習を行うには、もともと個の力やアクティブな行動力が評価される海外の学習環境はうってつけだ。とくに教育旅行の受け入れに力を入れているクイーンズランド州では、日本の探求学習に適した教育プログラムも数多く開発されている。

オーストラリアのモートン湾

そうしたプログラムの代表格がオーストラリア日本野生動物保護教育財団（AJWCEF）の教育講座だ。AJWCEFは、クイーンズランド大学で上級講師も務めている日本人獣医学博士の水野哲男氏が2009年に設立したオーストラリア連邦政府公認の非営利環境保護団体で、ブリスベンに本拠を置き野生動物保護活動を行っている。

AJWCEFはまた教育啓発活動にも取り組んでいる。クイーンズランド州政府やクイーンズランド大学、カランビン野生動物保護区及び同保護区野生動物病院などと連携し、主として日本からやって来る教育旅行の参加者に対して環境野生動物保護のサイエンスプログラムやトレーニングプログラムを提供している。プログラムの内容は獣医学を学ぶ大学生や院生等を対象とした専門的なものから、中高生向けの一般的なものまで幅広く用意している。

またコロナ禍で日本とオーストラリアとの往来が途絶えていた間も、オンラインによる「SDGsオーストラリア環境野生動物保護講座」を開設し、各講座を組み合わせてカスタマイズし、各学校に最適なプログラムを提供する仕組みも用意。これらプログラムの売り上げの一部はオーストラリア野生動物保護活動への寄付にも充てられている。

水辺に不適切に捨てられたごみ

オンラインとリアルの組み合わせも

コロナ禍の苦肉の策として始まったオンライン講座だったが、オーストラリアへの渡航が可能になった現在は、オンライン講座が新たな強みを発揮することにつながっている。たとえばクイーンズランド州への教育旅行の実施を前提に、事前学習としてオンライン講座を利用して野生動物保護について学んだうえで、実際にクイーンズランドを訪問。オンライン講座で学んだ内容を現地で実際に見聞し体験することで探求学習の教育効果を高めるサイクルを実現できるからだ。

AJWCEFのSDGs教育プログラムで学べるのは、海洋ゴミや海洋プラスチックなどの環境問題や、オーストラリアの固有動物の謎について、フレーザー島（K'gari - ガリ）に生息するディンゴの生態、コアラの絶滅危機についてなど多岐にわたる。こうしたテーマに基づき、オンライン講座を学んだうえでクイーンズランド州を訪れ、たとえば海洋ゴミによって命を脅かされているウミガメなど海洋生物のレスキュー活動を実際に体験したり、動物病院で傷ついた野生動物たちの治療に立ち会ったりして学習内容をより深めていくことができる。

海洋ごみの影響を受ける海洋動物

新素材紹介

MARINE SCIENCE PROGRAM
オーストラリア・インターナショナル・スチューデント・ツアーズ

オーストラリアの自然やカルチャーを多面的に学ぶ教育旅行プログラムとして開発されたのがオーストラリア・インターナショナル・スチューデント・ツアーズ社の「MARINE SCIENCE PROGRAM」だ。12日間という長めの日程に盛りだくさんな内容を組み込んでいるのが特徴。海辺や海洋博物館、サンゴ礁の海に浮かぶポンツーンなどで海洋生物について学んだり、動物園や内陸部でのフィールド調査で野生動物について学ぶだけなく、先住民文化を体験したり、学校訪問をしたり、オーストラリアならではの文化体験もする。さらに島でのレクリエーションといったお楽しみもプログラムに含まれる。

また同社では「HUMAN FOOTPRINT ON OUR MARINE ENVIRONMENT」プログラムも設定。こちらも12日間のプログラムで、ホームステイやスクールビジットも組み込んでいる。訪問先は、ゴールドコーストからいったんニューサウスウェールズ州に滞在した後、クイーンズランド州に戻り、サンシャインコースト沖のフレーザー島（ガリ）、ケアンズ、グレートバリアリーフ、フィッツロイ島を訪れる。

ゴールドコーストではシーワールドに立ち寄りクラゲの生態を学び、フレーザー島（ガリ）では4WD車で島内探索し島内の淡水湖で水遊びもする。ケアンズではモスマン渓谷の沢下りなどを体験。フィッツロイ島ではグレートバリアリーフの海を体感するだけでなく、夜は南半球の星空観賞も楽しめるのが特徴だ。

INFORMATION

クイーンズランド州教育旅行に関してのお問い合わせ

TEL ● 03-5404-7162（担当：柴田）
E-mail ● Shozo.Shibata@queensland.com
URL ● queensland.com

ビクトリア州
Victoria

教育旅行の目的地として人気の高いオーストラリア。なかでもビクトリア州は、高い学習効果を求める教育旅行に最適だ。さまざまな文化が共存する世界有数の多文化都市、州都メルボルンでのグローバル体験、そしてメルボルンから少し足を伸ばしただけで、大自然が広がる。教育レベルの高さもオーストラリア随一だ。

高い教育レベル、すぐそばに大自然！

直行便でメルボルンへのアクセスが大変便利

ビクトリア州、メルボルンへの教育旅行をお薦めする5つの理由

Melbourne Victoria

01 世界で一番住みやすい都市「メルボルン」

メルボルンはビクトリア州の州都で、19世紀の面影を残した建造物と近代的な建造物が融合した街並みが魅力の都市。別名「ガーデンシティ」とも呼ばれるほど緑豊かな公園が点在し、イギリスの雑誌エコノミストの調査部門がまとめている「世界で最も住みやすい都市」ランキングでは2011年から2017年まで連続1位に選ばれているほど。治安の良さ、医療や教育水準の高さ、文化、インフラなど、安心／安全はお墨付き。

02 すぐ近くに豊かな自然

オーストラリア本土で一番小さいビクトリア州に位置しながら、豊かな自然が広がり、四季の変化により季節ごとにユニークな体験ができるメルボルン。郊外の観光地へのアクセスが良いため移動時間が少なく、滞在時間を有効的に活用できる。リトルペンギンを観察できるフィリップ島や、「世界一美しい海岸線」と言われるグレートオーシャンロード、緑豊かで広大な牧草地帯など、メルボルンを少し離れただけでオーストラリアらしい豊かな大自然に触れることができる。

03 直行便でアクセスが大変良い

現在、日本航空が東京（成田）―メルボルン間直行便を運航中。また、カンタス航空が9月13日から東京（羽田）―シドニー間直行便を再開予定。シドニーから国内線に乗り換えてメルボルンへアクセスできる。他都市からでも東京経由、アジア経由便でアクセスが大変良い。

04 市内中心エリアのトラム乗車が無料

トラム（路面電車）はメルボルンを代表する公共交通機関。トラムに乗れば市内ほとんどの観光スポットを巡ることができる。乗り方も容易なので、初めてメルボルンを訪れる人でも気軽に利用できる。市内中心区域、及びドックランド地区内で全てのトラムの乗車は無料。市内の外周を循環するシティサークルトラムと合わせて、リーズナブルでより充実した市内観光やオリエンテーションを提供できる。

05 大変親日的なメルボルン

メルボルンには親日家が多く、日本の地方自治体や学校との交流も盛ん。日本語教育も進んでおり、また小学校から大学まで、多くの学校で日本語を教えている。日本語は最も人気のある外国語。また夏祭りやアニメ祭、そして映画祭など、言語以外にも日本文化が広く浸透している。

メルボルンの おすすめ教育プログラムと素材

多文化やライフスタイルを通して国際意識を体感

スタディーツアー

ビクトリア州政府教育訓練省が提供する短期研修旅行。専属の教師による英語の授業だけではなく、専門分野を学んだり、現地の学生と交流したり、ホームステイなどを通して、総合的にオーストラリアのユニークな文化に触れ合うことができる。期間は3日間～12週間程度で、グループの目的や規模、予算に合わせて自由に組み立てることができる。

https://www.study.vic.gov.au/jp

ファームステイで酪農・農業体験

ファームステイ

ビクトリア州ではメルボルン近郊のカイントンやバララットの牧場や農園を紹介。代表が日本に滞在していたこともあり、日本人学生の特徴を良く把握している。受け入れ人数は最大500名と大型の研修旅行にも対応可能。滞在できるファームは牧場や農園など多彩なラインアップ。各生徒は安心の環境の中で思う存分ファーム生活をエンジョイできる。ファーム滞在とステイ先での交流は、生徒達にとって学習以上の貴重な体験を得ることができるだろう。

www.downunderfarmstays.com.au

オーストラリア最初の世界文化遺産

王立博覧会場とカールトン庭園

1880年に開催されたオーストラリア初の万国博覧会のために建設され、当時の万博の歴史を垣間見られる建造物として、2004年にユネスコ世界文化遺産に登録された。美しいビクトリア様式の建物で、オーストラリア初の連邦議会が開催された場所でもある。ガイドツアーによる内部見学も可能。メルボルン博物館に隣接しているので、セットで訪れたい。

museumsvictoria.com.au/reb

南半球最大規模を誇る博物館

メルボルン博物館

世界遺産の王立博覧会場の隣に位置している南半球最大の総合博物館。ひときわ目を引く近未来風の建物が特徴。博物館の展示場とバンジラカ・アボリジニ文化センター、IMAXシアターに分かれ、地域の学校教育の一環としても利用される、教育関係設備やプログラムが充実。6つのテーマ(オーストラリア社会、先住民族、人間の心と体、科学、技術、環境)を軸に、さまざまな趣向を凝らしたバラエティに富んだ内容の展示はビクトリア州とオーストラリアについての知識を高めるのに最適。

museumsvictoria.com.au/melbournemuseum

宇宙科学を学ぶ体験型施設

ビクトリア州宇宙科学教育センター

2006年にオープンした宇宙科学がテーマの州立施設。学生には宇宙服を身に着けて参加する「ミッション・トゥ・マーズ」がお薦め。「鉱物サンプルの採取」や「探知機の故障を修理」といったミッションをグループで協力しながら任務をこなすという内容で、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）などの理系校に最適だ。

www.vssec.vic.edu.au

オンラインでホームステイ体験

イージー・エクスペリエンス（EziExperience）

コロナ禍により海外研修や留学ができない状況が続く中、EziTech社によるオンラインコンテンツの最適なプラットフォーム。非対面時代に合わせ、英語レッスンを含めた「オンラインホームステイ」は日本を含む国際教育機関において、留学のモチベーション維持のために導入が急がれている。オンラインホームステイでは、英語でホストファミリーと現地のカフェやビーチを訪れたり、大学・シティツアーなどを通じ、ホームステイまたはそれ以上の経験を提供する。同時に大学でも単位認定されている「オンラインインターンシッププログラム」では、現地企業での課題解決やコミュニケーション、チームワークなどを体験することができる。 www.eziexperience.co

MELBOURNE Australia ビクトリア州政府観光局

電話（東京） 03-6257-1080

ウェブサイト jp.visitmelbourne.com Email japan@visitvictoria.com.au

羽田－シドニー線

9月12日より週3便*で運航再開！

カンタス航空は、2022年9月12日より（羽田発は9月13日から）、羽田－シドニー線の運航を再開する。
待ちに待ったオーストラリア旅行には、乗った時からオーストラリア気分になれるカンタス航空がおすすめだ。

Schedule

10月末から毎日運航予定
夜に出発、翌朝に到着、便利なスケジュール

カンタス航空の羽田－シドニー線は、まずは週３便*での運航からスタート。10月末からは毎日の運航となる予定で、より利便性が向上する。

また、注目したいのが運航スケジュール。羽田発、シドニー発とも夜の出発で、翌朝に目的地へ到着する。到着当日から１日をフル活用できる便利なスケジュールだ。

＊スケジュールは予告なく変更になる場合があります。

Network

シドニー発の充実のネットワーク
日本各地からの乗り継ぎも可能

カンタス航空は、オーストラリアの航空会社として、シドニー発の充実したネットワークを誇る。シドニーからオーストラリア各地へスムーズにアクセスでき、加えてシドニーに朝到着、また夜に出発するので、乗り継ぎ便も豊富にあるのが大きな強みだ。

一方、羽田発着のフライトなので、アライアンスパートナーの日本航空の国内線を使って、日本各地から乗り継げる点も便利。帰りも羽田を朝に到着するので、その日のうちに日本各地へ戻ることができる。

羽田－シドニー線運航スケジュール

9月12日から10月29日まで

便名	スケジュール	機材	月	火	水	木	金	土	日
QF26　羽田 → シドニー	22:00 / 08:50 +1 （10月2～28日）22:00 / 09:50 +1	A330		✓			✓		✓
QF25　シドニー → 羽田	20:55 / 06:00 +1 （10月3～29日）21:55 / 06:00 +1	A330	✓			✓		✓	

10月30日から2023年3月25日まで

便名	スケジュール	機材	月	火	水	木	金	土	日
QF26　羽田 → シドニー	22:00 / 09:50 +1	A330	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
QF25　シドニー → 羽田	21:35 / 05:25 +1	A330			✓	✓	✓	✓	
QF25　シドニー → 羽田	22:10 / 06:00 +1	A330	✓	✓					✓

※ +1：翌日着　※スケジュール、機材は予告なく変更になる場合があります。

Business Class

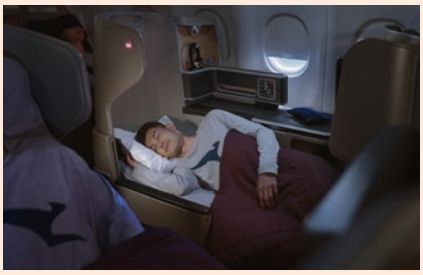
離陸から着陸までリクライニングが可能

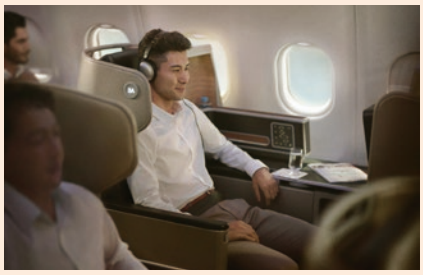
ビジネスクラス

カンタス航空の羽田－シドニー線の使用機材はA330型機。ビジネスクラスの座席は、ビジネススイートとして、全席通路に面した開放感のある空間が特徴。離陸から着陸まで、専用のマットレスを付けたまま、フルフラットベッドでのリクライニングが可能。夜間のフライトの貴重な睡眠時間を確保できるのがうれしい。ほかにも座席にはPC電源とUSBポートを完備する。

ビジネスクラス専用の客室乗務員によるサービスも充実。収納可能なタッチパネル式モニターで、1600種類以上のエンターテインメント（映画、TV番組、音楽、ゲームなど）を、周辺の音を軽減する機能付きのヘッドフォンで楽しめる。

また、コットン100％のパジャマやアメニティキットを用意。アメニティキットには、竹の歯ブラシや、リサイクルプラスチックを使用したチューブやボトルを採用するなど、廃棄物削減、サスティナブルを意識したアイテムが入っている。オーストラリアで人気のレストラン「ロックプール」がプロデュースした機内食もぜひ味わいたい。





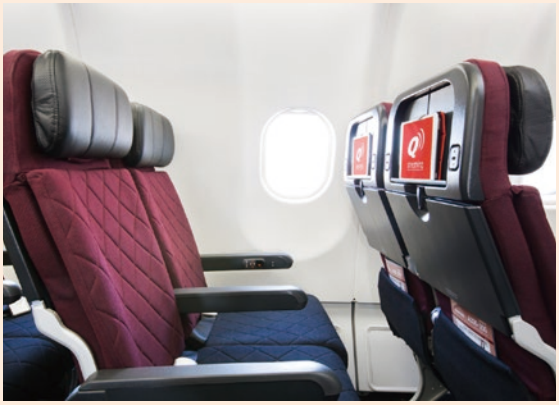
Economy Class

快適な座席でゆったりとくつろげる

エコノミークラス

人間工学に基づいて設計されたスリムシートには、調節可能なウィングのついたヘッドレストと、座席部には腰サポートが埋め込まれているので、身体をしっかりとサポート、機内でゆったりとくつろぐことができる。

またビジネスクラス同様、PC電源とUSBポートを完備。各席のタッチパネル式モニターでは、エンターテインメント（映画・TVショー・音楽・ゲーム等）を楽しめる。さらにアイマスク、歯ブラシを希望者に配布。３種類から選べる機内食はボリュームがあり、好評だ。



安心、快適なサービスを提供（イメージ）

Service

安心、快適なサービス
受託手荷物30kgまで無料、Fly Wellで万全

安心、快適なサービスにも注目したい。すべてのフライトで受託手荷物が運賃に含まれており、日本発オーストラリア行きの航空券については、個数制限なしで総重量30kgまで無料（ビジネスクラスは40kg）。

カンタス航空にとって、お客様の安全と健康は最優先事項。非接触型チェックインやセルフサービスの手荷物預け入れ、手指消毒ステーションなど、適切な対策を行う。また、搭乗時にはマスクとウェットティッシュの入った「Fly Well」パックを配布する。

カンタス航空羽田ーシドニー便、いよいよ運航再開！

2022年9月13日より、カンタス航空は羽田ーシドニー週3便*の運航を再開します。
さあ、開放的なオーストラリアへ冒険の旅に出よう！

＊羽田発：火曜、金曜、日曜。シドニー発：月曜、木曜、土曜。

詳しくはqantas.comまたは旅行会社へ

QANTAS
Spirit of Australia

oneworld

※スケジュールは予告なく変更になる場合があります。
ご予約およびご旅行前に最新の渡航要件をご確認ください。